



Fukushima Medical University

AIZU
Medical
Center

2013年 5月
OPEN!

福島県立医科大学 会津医療センター

会津医療センターは、福島県立医科大学の附属施設として開設する施設です。

診療・教育・研究機能を備えた施設として、地元の医療機関との機能分担、相互補完、連携を行いながら、会津・南会津地域の医療を支えていきます。

病院概要

- 開院時期 ……2013(平成25)年 5月
- 建 設 地 ……福島県会津若松市河東町谷沢地内
- 敷地面積 ……約5万2000平方メートル
- 延床面積 ……約2万2700平方メートル
- 建物構造 ……鉄筋コンクリート造(免震構造)6階建
 - 1階: 外来
 - 2階: 手術室、人工透析室、院内保育所
 - 3階: 研究室、講義室、一般病床
 - 4・5階: 一般病床
 - 6階: 緩和ケア病床
- 病 床 数 ……226床
- 工事開始 ……平成22年秋



診療科 ● 総合内科／漢方内科／循環器内科／血液内科／消化器内科／糖尿病・代謝・腎臓内科／感染症・呼吸器内科／神経内科／心身医療科／外科／小腸・大腸・肛門科／整形外科／脊椎外科／眼科／皮膚科／泌尿器科／耳鼻咽喉科／放射線科／麻酔科／病理診断科／歯科／リハビリテーション科／緩和ケア科 (22科予定)



Aizu Medical Center

県立会津総合病院と県立喜多方病院は会津地域全体の医療を支える、福島医大 会津医療センターとして生まれ変わります。



《お問い合わせ》



公立大学法人
福島県立医科大学
会津医療センター

〒960-1295 福島県福島市光が丘1番地
TEL:024-547-1011(事務局:法人経営室)

詳しくはホームページをご覧ください。▶





会津医療センター準備室教授の紹介



【総合内科】

鈴木 啓二

内科疾患の初期治療や総合的な診療を担当します。対象疾患は内科全般。疾患の種類や程度によっては各専門診療科と連携して診療を行います。地域医療では総合的な診療能力を持った医師が必要であり、これらの医師の育成も重要な役割のひとつです。当科は内科全般を診療する能力を有し、各々が専門領域も有している医師で構成されています。総合内科と専門診療科が連携することで効率性が良く、質の高い医療を提供することができます。



【感染症・呼吸器内科】

新妻 一直

会津医療圏内の結核を含めた感染症やHIV／AIDSなどについて他医療施設や行政などと情報の共有化・スキルアップを図りながら対応いたします。また、診断に苦慮する肺疾患、喘息やCOPDなどの早期治療において会津の医療を先導することが当科の最大の特色です。最新のエビデンスに基づいた感染症・呼吸器疾患の治療、知識と医療技術の向上のための教育、研究を行ない、大学や地域医療機関との連携・相互共有を図ります。なお結核については福島県内の集約化を目指します。



【漢方内科】

三渚 忠道

漢方は古代中国を起源とし、1500年の歳月を経て日本化された伝統医学で、湯液（漢方薬）治療と鍼灸治療が二本柱です。漢方医学では主に五感を用いて病人の状態を判断し、それに対応した治療の効果により診断を確定するという、治療本位の医学です。当科は現代医学とは異なる診断方法と治療手段（漢方薬、鍼灸手技）を用い、入院を含めた診療を行い、東西両医学を融合した医療体系の構築を目指します。学生から医師までの漢方医学教育、漢方薬の地産地消を目指した研究なども行います。



【外科】

齋藤 拓朗

会津地方の医療拠点として地域医療の向上に貢献するために、先進的な医療を個々の患者さんに最適な形で提供することを診療の基本としています。主たる対象は、消化器疾患の患者さん（消化管外科および肝胆膵外科領域の疾患）です。難治性疾患の多い肝胆膵領域では安全・確実な外科手術に加え集学的治療による治療成績の向上を目指し、両領域で鏡視下手術を導入しています。また、手術前後など各種の病態に応じて漢方治療を組み合わせています。



【循環器内科】

鶴谷 善夫

循環器内科は、狭心症や心筋梗塞等の虚血性心疾患、心房細動などの不整脈、高血圧、心不全、睡眠時無呼吸と関連の深い診療科です。医療の進歩は著しいですが、治療の際には最良の医学的根拠を基に、患者様に最適と考えられる治療を提供して参ります。また、カテーテルによる不整脈先進治療や先述の領域のさらなる進展拡充を進めます。広大な会津地方という事を考慮し、先進技術を利用した心臓病管理など医工連携にも注力します。良質の医療の継続には教育が重要で、未来の福島県の医療を担う人材育成も行っています。



【小腸・大腸・肛門科】

富樫 一智

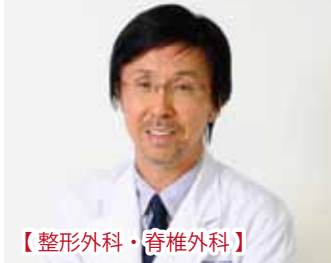
小腸・大腸・肛門科では、小腸から肛門にいたる消化管疾患の診断・治療を行っています。2012年4月からは腹腔鏡手術のエキスパートを横浜北部病院から迎え、外科領域が強化されました。最新のハイビジョン型内視鏡・カプセル内視鏡・ダブルバルーン内視鏡・大腸3D-CT検査などの診断だけでなく、内視鏡治療・腹腔鏡手術も含めた治療まで一貫して行っています。痔核に対しては、切らずに治す注射療法（ALT-A）を導入し、好評を博しています。お気軽にご相談ください。



【血液内科】

大田 雅嗣

血液内科では各種貧血、造血器腫瘍疾患、出血性疾患など血液に関わる疾患全般の診断・治療を行い、これらの疾患に関する研究を行っています。平成22年4月に県立会津総合病院で診療を開始し多くの患者さんを診てきました。特に造血器腫瘍疾患に対して分子標的療法を含めエビデンスに基づいた最新の治療を実施しています。近隣の医療機関、県立医大との連携を深めながら会津の血液内科診療の拠点として頑張っています。知りたいことがあれば気軽に声をかけて下さい。



【整形外科・脊椎外科】

白土 修

整形外科・脊椎外科は、骨・関節・脊椎・脊髄・靱帯・筋肉などの病気や外傷を診断し、治療する診療科です。中でも、脊椎・脊髄疾患への対処に特化し、「脊椎・脊髄先進医療センター」の役割を果たします。高齢化社会の進む会津地方の特徴を鑑み、腰部脊柱管狭窄症、側弯症、骨粗鬆症、圧迫骨折などの治療・研究に取り組みます。手術からリハビリテーション、臨床研究から基礎研究へと幅広い活動を行い、「会津から世界への発信」が究極の目標です。



【消化器内科】

入澤 篤志

福島医大会津医療センターには、県内随一といえる最新の内視鏡・超音波機器が配備されます。消化器内科の診療において、これらを用いた診断や治療は非常に大切です。しかし私たちは、最高の機器を使いこなしながらも機器だけに頼らず、患者様サイドに立った「心の医療」を診療の柱として、食道・胃・十二指腸、すい臓・胆のう・肝臓などの「おなかの病気」で悩まれている全ての方々の診療に全力であたります。笑顔と誠実の私たちにお任せください。



【耳鼻咽喉科】

小川 洋

平成23年6月から県立会津総合病院に赴任し、平成25年5月の会津医療センター開院に向けて準備を進めてまいりました。中耳手術、内視鏡下鼻副鼻腔手術に関しては手術実績ができるようになってきました。平成25年4月から3名体制で診療、研究にあたることになります。耳、鼻領域はもちろん高齢者に対する嚥下障害など幅広く地域完結型の耳鼻咽喉科領域の医療を提供したいと考えています。



【糖尿病・代謝・腎臓内科】

塚本 和久

糖尿病・代謝疾患・腎疾患は、生活の質を低下させる様々な合併症を引き起こす疾患であるとともに、生活習慣そのものが大きく関与する疾患です。そしてわが国は高度の高齢化社会を迎え、生活習慣病が大きな問題になっております。当科では、エビデンスおよび基礎理論に基づきつつ、患者の生活背景・合併症などに留意した全人的な医療を行うとともに、基礎・臨床研究を通じて、その発症機序の解明・予防法の確立・治療法の改良と開発を目指しております。

《現職》

福島県立医科大学会津医療センター準備室長（2012年4月～）
日本医学会会長（2004年4月～）
自治医科大学名誉学長、
東京大学名誉教授

高久 史磨

《経歴》

1954年東京大学医学部医学科卒業、自治医科大学内科教授、東京大学医学部第三内科教授、東京大学医学部長、国立病院医療センター院長、国立国際医療センター総長を歴任し、1996年から2012年まで自治医科大学学長を務めた。

《受賞歴》

ヘルツ賞第1位受賞、武田医学賞、上原賞、持田記念学術賞、井上春成賞、日本医師会最高優功賞、紫綬褒章、瑞宝大綬章、など受賞歴多数。

準備室長あいさつ

「福島県立医科大学会津医療センター」は、平成25年5月に診療・研究・教育機能を持った施設として新たに誕生します。様々な地域を抱える福島県は、大都市を中心に考えた医療政策では、カバーできない多くの問題があります。福島県立医科大学はこのような問題にも積極・果敢に取り組み、地域医療の「福島モデル」の創生を目指しています。

【医療・教育・研究を支える拠点】

「会津医療センター」は、大学附属施設として最先端の医療を提供し、学生・研修医の教育・研究の場となります。また、感染症対策・へき地医療支援などの政策医療に取り組むとともに、地域医療機関との連携・協力により、会津地域全体の医療を支える機能を果たします。

【専門領域に特化した高度な医療の提供】

「会津医療センター」には、「漢方医学センター」、「血液疾患治療センター」、「最先端内視鏡診断治療センター」、「脊椎・脊髄先進医療センター」などを設置し、専門領域に特化した高度な医療を提供します。また、がん患者に快適な療養環境を提供する「緩和ケア病棟」を設置します。

【大学附属施設としての研究機能】

「会津医療センター」には附属研究所を設け、民間企業等との提携による医工連携研究、会津エリアを広くカバーする臨床疫学研究などにも力を入れます。また、松平・保科氏により設置された御薬園での生薬栽培の歴史も踏まえ、「漢方医学研究室」を設置し、生薬の栽培や鍼灸治療の研究を行います。

これまで教授をはじめ多くの医療スタッフは、「会津医療センター」の設立準備に携わりながら、県立会津総合病院で診療を開始しております。会津地域の皆様に安心と信頼を得られるよう職員が一丸となって全力で取り組んでまいります。

